13 小児外科学講座

主任教授からのメッセージ

厚生労働省の医師統計では、女性外科医は外科医全体の 7.8% と言われています。女性外科医が少ない背景として①休職率・離職率が高い②常勤への復職が難しい③仕事と家事の両立が難しい、などが理由として挙げられています。小児外科では対象が「小児」である特性から、母性愛に溢れた女性外科医の需要が、他科に比して高いことが特徴です。当科では、有難いことに志の高い女性医師が 1 人また 1 人と、継続して入局してくれており、他の外科に比して女性医師の割合が高いチーム構成となっています。ゆえに私たち小児外科チームでは、男性医師も強制されることなく、自然に、大切な同僚である女性医師を理解し、支え合える土壌が整っています。出産、育児を経験しながら復職し活躍できる女性医師が、私たちのチームの中にも増えてきました。冒頭に挙げられた女性外科医ならではの復職の難しさを克服しながら、私たち独自のプログラムで、女性医師の少ない外科関連診療科の中にあって先駆的なロールモデルになるべく、男女比 1：1 の理想的な小児外科チームを着実に醸成しています。

○ 診療科の特徴

手術だけでなく外来や検査、胃瘻交換など幅広い業務があります。

また手術も、長時間の手術以外に、短時間のものもあり、女性でも無理なく執刀できる症例もたくさんあります。

今は診療科内の女性医師の割合も増えてきています。

○ 診療科で働く女性医師

現在、当講座では女性医師が 4 名在籍しており、留学や育児休業を取得している医師もいます。子育て中の医師は、子の発熱等で急に休みを取ることもありますが、なるべく執刀機会を得られるようフォローしています。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

どのような勤務形態で復帰するかは、本人の体調、希望などに合わせて相談して決定します。産休・育休明けには、大学の規程に従い勤務を開始します。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

小児外科学講座では、妊娠・出産・育児とキャリア形成を両立できる柔軟な勤務体制を整え、復帰後も執刀機会を確保できる継続的な支援を行っています。ブランクへの不安には段階的な業務復帰と指導医のサポートで対応し、専門医取得やキャリアアップも後押しします。臨床のみならず学会発表や論文作成も含め、安心して成長できる環境づくりに努めています。性別を問わず支え合う文化のもと、長く働き続けられる小児外科を目指しています。どうぞお気軽にご相談ください。

復帰した医師の声

体験談（A 先生）

2025 年 4 月に設置された当科で初めて妊娠・出産を経験したため、前例がなく少し不安な気持ちもありましたが、復帰に関しては様々な選択肢を与えてもらえました。

妊娠初期の悪阻で辛い期間は業務が軽減され、また妊娠後期の身体が思うように動かない期間は、できるだけ負担の少

ない外来業務等を受け持つなど、妊娠中も何らかの形で積極的に業務に加われるよう配慮していただきました。

育休中に外科専門医を取得し、産後８ヶ月で復帰しました。復帰直後は、保育園からの呼び出しで欠勤や早退が続いてしまいましたが、そんな中でも執刀症例を担当することができ、教授や准教授からの手厚い指導を受けながら外科医として戻ることができました。産休・育休でのブランクで、手が動かなくなったらどうしようという不安があり、復帰前は子供が寝ている隙に糸結びの練習や手術動画を見直して、復帰のイメージを掴んでいました。

復帰後はなかなか思うように働くことができず、色々と思うところもたくさんありましたが、周りの先輩後輩からたくさんサポートを得られたおかげで、自分の働き方が少し見えてきました。

● 講座ホームページ　関西医科大学　小児外科学講座　　**https://kmu-pedsurg.com/**